

○ 上部消化管内視鏡の到達目標項目

当院で初めて内視鏡検査を行う医師を対象として、3 ヶ月間でスクリーニング検査が遂行できることを目標とする。

- ①第1週：指導医の検査手技を見学し、全般的な操作を理解する。
- ②第2-4週：指導下に胃内で3分間の観察を行う（20例）。
- ③第5-8週：指導下に挿入を行い、食道・胃・十二指腸を3分間観察する（30例）。
- ④第9-12週：指導下に挿入を行い、5分間で検査を完遂する（30例）。
- ⑤後期研修1年目（卒後3年目）：指導下にPEG・EVLを行う。
- ⑥後期研修2年目（卒後4年目）：指導下に止血処置を行う。

いずれも内視鏡件数 年間500例

○ ERCP の到達目標項目

- ①後期研修1年目（卒後3年目）：ERCPの介助を行う。
- ②後期研修2年目（卒後4年目）：指導下に胆管挿管・造影を行う。
- ③後期研修3年目（卒後5年目）：指導下にEST・結石除去・ステント留置を行う。

○ 下部消化管内視鏡の到達目標項目

当院においては下部消化管内視鏡については、個々人の外来から予約された患者については原則、予約した医師が施行する。それ以外の予約患者については、患者の年齢及び性別、腹部手術歴を含む病歴をもとに、上級医が担当する医師を決定している。

基本目標として年間200症例以上の下部消化管内視鏡に携わることを設定したうえで、以下の項目を到達目標として挙げる。

- ①内視鏡の抜去を行い、所見を記載する。（10例）
- ②指導下に困難例を除いて全大腸挿入を行い、全大腸観察を行う。（100例）
- ③指導下に困難例を含めて全大腸挿入を行い、簡単なポリープ切除を行う。（50例）
- ④全ての症例において全大腸挿入を行い、ポリペクトミー及びEMRを行う